



未来に生きる子供たちをたくましく育てたい！

揖斐郡小学校長会長 山本 幸雄

- 「ターザーン！」 私の母校は、旧谷汲村の長瀬小学校です。小学校時代を思い起すと、
- ①先生方の手作り遊具で思い切り遊んだこと。（裏山のターザンロープで、ターザンごっこを楽しんだり、校庭の銀杏の大木にかけられたロープを使って木をよじ登り、秘密基地ごっこをしたりしたこと）
 - ②夏になると裏山の池や学校の近くを流れる府内川に行き、たも網でヤゴや魚、カメなどを捕ったこと。
 - ③登下校の道が土砂崩れて塞がれ、山の中の自然歩道を歩いて、片道約4kmある道のりを友達と一緒に通ったこと・・・
- など、自然の中での貴重な体験がいくつも蘇ってきます。
- 一方で、これらは、今の時代ならどうでしょう？ 時代や社会も変わってきていることを踏まえると、
- ①子供がロープから手を放して、地面に落ちたら大けがをする。そんな遊具の使用を禁止し、撤去します。
 - ②池や川に入ることは危険。また夏は熱中症の心配もある。活動を控えさせましょう。
 - ③山の中を歩くことは危険過ぎる。熊や猿に襲われるかもしれない。臨時バスを利用して、回り道をして登下校できるようにします。
- といった対応になるのでしょうか。

子供の安全・安心は重要なことです。その点は疑うまでもありませんが、安全・安心を守るために、行き過ぎた対応をしていないか。その結果、実は子供がたくましく生きていくための貴重な経験を奪ってしまっているのではないかと危惧することがあります。

例えば、私たちは生活の中で様々なけがをします。命に関わるような大けがは何としても避けたいものですが、軽傷は誰でもするものです。でも、「けがはダメ」と言って、危険がないように、けがをしないようにと、周囲の大人が予め危険を徹底的に取り除こうとしている場合があります。そんな中で、子供たちの危機回避能力や危機予測能力を育むことはできるのでしょうか。

また、友達との人間関係に悩むことは誰にでもあるものです。他と生活の場を同じにする以上、けんかやトラブルはつきものです。しかし、けんかやトラブルがあると、すぐに大人が仲介し、問題の解決に向かうことが少なくありません。心に大きな傷を負うこと、複雑な問題に発展することは防止しなければなりません、「みんなと仲良くしなさい。」「悪かったことを謝りなさい。」といった指導だけでは、良好な人間関係を構築する力はつかないのではないのでしょうか。

より豊かに、よりよい人生を生きるためには、様々な体験をすること、やりたいと思うことに思い切り挑戦すること、失敗を経験し、失敗を通して学ぶことなどがが必要です。だからこそ、子供がちょっとした失敗することを周囲の大人たちは恐れすぎてはいけない、と思うわけです。

子供たちが生きる未来の社会は、変化の激しい予測困難な社会です。子供たちがそうした社会を幸せに、また豊かに生きることができるよう導くことが、我々大人の責務であると考えます。そのために、教育における「不易」と「流行」の双方のバランスが偏らないように指導を展開したいと思っています。

子供の頃に、テレビコマーシャルでよく流れていたフレーズ「わんぱくでもいい。たくましく育ってほしい」－今の時代の子供たちと接していて、そんなことを強く思っています。

令和7年度後期 揖斐郡教育研修センターの運営方針

■重点と具体的な取組

郡教育会・郡教育研修センター事業の **アップデート（成果・スリム化・ICT活用・エビデンス）**

重点	ねらいや方途
揖斐郡の教職員・児童生徒・教育関係者から必要とされる郡センター経営と事業推進 揖斐郡の児童・生徒の成長と充実感につながるねらいが明確な事業事業の推進	● 揖斐郡小中学校校長会や各町の教育委員会と連携して、郡センターの機能を発揮していく。 ● 一人一人の児童生徒の個性の伸長や自己肯定感をもつことをめざした児童・生徒文化事業を工夫して行うとともに、優れた取組や成果を郡内の各学校が共有できるよう働きかける。 ● ほほえみ教室を核にして、郡小中校長会や各校の教育相談カウンセラーと連携し、健康安全や教育相談活動等の充実を図り、気軽に利用できる学校教育・社会教育の窓口となるよう努める。
「郡内の教職員が必要とする多様で有効な研修の場や教育情報」の提供	● 「開かれた研修センター」として、「教職員にとって多様で有効な研修の場」を設けるとともに、「郡内の教職員が必要とする教育情報」を提供できるようにし、揖斐郡教職員の資質及び指導力の向上を図る。
揖斐郡のICT活用推進の中心的な存在としての機能を発揮し、学校の教育活動の充実	● 郡センター発信の「ICTの活用」による揖斐郡教育の充実や教職員の仕事内容のスリム化（合目的な効率化）への貢献

■郡センター発信の ICT 活用の 5 本柱による教育の質向上と効率化

ICT を活用したスリム化や教育事業の改善（目に見える形でのエビデンスの提出）

① 生成AIの教育への有効な活用の推進

生成 AI 活用の夏季研修＋各校への生成研修のまとめのセンター通信＋

「揖斐郡生成 AI 活用ブック（揖斐郡教育研修センター編）の各校への送付

→それをもとにした郡内各校の生成 AI を活用した授業実践や校務のスリム化の推進 と生成 AI を活用する教職員の増加を図る

（生成 AI 活用研修）岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授 DX 推進センター長 芳賀 高洋 先生に「生成 AI の課題と教育利用について」の講演

⇒講演アンケートは「揖斐郡教育会夏季研修 生成 AI 活用研修のまとめ」の郡センターだよりとして各校に送付するとともに、アンケートの中で要望の多かった「各教科での生成AIの活用の具体例について知りたい」という要望に基づき、

● 文部科学省の「初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン」

● 岐阜県教育委員会 義務教育課の「学校における生成 AI の利活用について」

● 「各教科での生成AIの活用の具体例について（揖斐郡教育研修センター提案）

（1）文科省「初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン」に示された先進事例

（2）生成 AI の Gemini 及び Copilot の回答をもとにした活用法

（3）郡教育研修センターからの生成 AI の活用法についての提案

をまとめた「揖斐郡生成 AI 活用ブック」を作成し、送付⇒その内容を各校で校内研修等で全職員で共通理解を図るとともに生成 AI の効果的で適切な活用を推進する。

② TEAMS によるオンライン会議・研修

オンライン会議の中に話し合う場を位置づけ、揖斐郡の教職員が相互に話し合えるようにしていく。

③ 郡センターホームページの効果的な活用

各ライブラリーのデータベースや HP に掲載しているコンテンツを揖斐郡内の各校で積極的に行われるようにする。

④ 掲示板の効率的な活用

郡センター⇒各校、教研支部での各部会の活用だけでなく、揖斐郡内の教職員が合目的に実践を交流したり、連絡し合えるツールとしての利用を推進する。

⑤ グーグルフォームの活用

グーグルフォームを活用したアンケートを実施し、郡内の先生の声に耳を傾けた揖斐郡教育会の事業改善を行い、ICT 活用によるスリム化をより徹底する。

令和7年度揖斐郡科学作品展・社会科課題追究作品展

9月6日(土)・9月7日(日)に令和7年度の「揖斐郡科学作品展」・「揖斐郡社会科課題追究作品展」を揖斐川町地域交流センター「はなもも」で実施しました。

作品展には夏休みの間に児童・生徒のみなさんが熱心に取り組んだ素晴らしい作品が各校から出品され、多くの方に参観していただきました。

講評の中には「授業で学んだことを発展させたり、将来の夢とつなげて研究したりして楽しんで研究に取り組んでいる思いが伝わる作品がありました」というご意見もあり、郡科学・社会科作品展が揖斐郡の児童生徒の成長につながっていると感じました。



令和7年度 揖斐郡科学&社会科課題追究作品展入場者数

総参観者数	643	人
(昨年度(R6):)	607	人
第1日: 9月6日(土)	361	人
第2日: 9月7日(日)	282	人



令和7年度 取組数

取り組み状況	郡での 総取り組み数	郡作品展 出品数	入賞数			
			金賞	銀賞	入選	県作品展 出品
科学作品展	341点	70点	7点	22点	41点	4点
社会科課題追究作品展	177点	57点	6点	11点	40点	6点

令和7年度 郡科学作品展の金賞受賞作品

研究の部				
ゆめはパティシエ ～チョコレートのみき～	小島小学校	1年	小椋 千穂	さん
めざせ! 線こう花火名人 パート2	小島小学校	2年	川合 葵依	さん
大豆が納豆きんで大変身! ～ねばねばパワーのひみつを探れ～	北小学校	4年	見屋井 花	さん
どうしたら登校が楽になるの!?	温知小学校	5年	森 絃	さん
さらさ山は本当にピラミッドに似ているのか?	温知小学校	6年	宇野 智晴	さん
おいしいそうめん大作せん	池田小学校	3年	伊藤 桃那	さん
標本・採集の部				
いび川の流木	揖斐小学校	6年	今西 康瑛	さん

令和7年度 社会科課題追究作品展の金賞受賞作品

『乙原紙』って、本当にあったの?	北方小学校	5年	高橋 穂香	さん
お茶の大研究	小島小学校	5年	藤内 結菜	さん
大野町の文化財 ～時間を越えた歴史のロマン～	大野小学校	6年	外川 陽輝	さん
身近なキケンどうしたらみんなを守れる? 私の地域安全対策マップ	南小学校	6年	青木 桜和	さん
大野町に大きな公園がないのはなぜ? ばくの理そうの公園計画!!	南小学校	3年	青木 仁多朗	さん
胄永地区 水田・転作田調べ	養基小学校	4年	坪井 馨子	さん

令和7年度揖斐郡読書感想文コンクール

令和7年度の揖斐郡読書感想文コンクールでは総取組点数が小学校517点、中学校664点の合計1,181点で、そのうち、郡の読書感想文コンクールには小学校80点、中学校50点の応募がありました。特選に選ばれた作品は郡の読書感想文集に掲載するとともに、郡教育研修センターのホームページに「デジタル版読書感想文集」としてアップします。

揖斐郡読書感想文コンクール応募・入賞状況

	総取組数	郡への出品数	特選	入選	佳作
小学校 自由図書の部	366	37	4	10	23
小学校 課題図書の部	151	43	2	10	31
小学校合計	517	80	6	20	54
中学校 自由図書の部	644	40	1	10	29
中学校 課題図書の部	20	10	1	4	5
中学校合計	664	50	2	14	34
郡全体	1181	130	8	34	88

令和7年度揖斐郡読書感想文コンクール特選受賞者

課題	こころのなかのたたかい	清水小	1年	加勢	凌真	さん
課題	しんゆうがほしいな	南小	1年	三間	壮馬	さん
自由	つながっていくいのち	小島小	3年	藤内	湊大	さん
自由	車いすの手にスプレイヤー 小田凱人さんの本を読んで	中小	4年	柴山	美羽	さん
自由	命の重み	清水小	5年	加勢	悠真	さん
課題	ぼくの体内時計とすいみん	小島小	6年	林	想真	さん
自由	命の尊さ	池田中	2年	竹中	咲綾	さん
自由	食べることと向き合う	谷汲中	3年	植山	あおいさん	

令和7年度 夏季研修 (教育相談・生成 AI 活用)

郡教育研修センターでは7月23日に教育相談研修を実施し、「子ども理解の視点と対応」のテーマで、各務原病院 臨床心理士・公認心理師 井上 修一先生の講演をお聞きし、日常の教育相談に生かせる子ども理解や指導方法について考えました。

また、8月1日には岐阜聖徳学園大学 教育学部教授 DX推進センター長 芳賀 高洋先生に「生成 AI の課題と教育利用について」のテーマで講演していただき、生成 AI の授業や校務での活用について学び合いました。また芳賀先生の講演の概要、文科省の「初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン」、県教委の「学校における生成 AI の利活用について」の内容、揖斐郡内での生成 AI の活用の具体例についてまとめた「揖斐郡生成 AI 活用ブック」を作成し、郡内各小中学校に配付するとともに、郡教育研修センターHPにアップしました。



「揖斐郡生成 AI 活用ブック」の内容

- I はじめに 「揖斐郡生成 AI 活用ブックについて」
- II 令和7年度夏季研修 (生成 AI 活用研修)
岐阜聖徳学園大学 教育学部教授 DX推進センター長 芳賀 高洋先生
「生成 AI の課題と教育利用について」の講演の概要
- III 初等中等教育段階における生成 AI 利活用に関するガイドライン
＜文部科学省 初等中等教育局 令和6年12月26日＞
- IV 学校における生成 AI の利活用について＜令和7年3月発行 岐阜県教育委員会 義務教育課＞
- V 「各教科での生成 AI の活用の具体例について (揖斐郡教育研修センター提案)

揖斐郡内小中学生の現状から（教育相談） 教育相談研修会・心の相談会

揖斐郡内において、不登校及び不登校傾向にある児童生徒は、約130名います。年々児童生徒数が減少しているにもかかわらず、その数は増加の一途をたどっている。その主な要因を挙げると学業の不振、生活リズムの乱れ・非行、無気力・不安などがあります。

特に最近では、無気力・不安が圧倒的に多く、心理的なサポートが求められます。これ以外にも原因がはっきりしない事例も多く、当該児童生徒に寄り添い、よく話を聞くことが大切であると思います。行事の精選や活動内容の変化、子ども同士のつながりの変化などいくつかの要因が影響していると考えられます。それらも含めて、SCや専門医などの医学的な意見も聞きつつ、子どもたちの内面にある心情を理解し、今後の対応について進める必要性が出てきています。

次に、児童生徒を支える保護者（特に母親）への支援についてですが、最近はお子さん以上に悩みを抱え、一人で悩んでみえるということが多くなってきています。心の相談会や研修会に参加されて、それぞれのお子さんに対する支援のあり方について、何らかのヒントを掴んで帰られる人が多くなってきています。ただし、これはあくまでもヒントであり、その後お子さんたちに直接関わられたとき、それがすべてうまくいくとは限りません。教師以上に多くの時間を共有していかなくてはならない保護者にとっては、当該児童生徒が安定し、さらには成長していくことは、強い願いであることは間違いありません。そのためにも、タイムリーで継続的な教育相談ができるようにしていきたいと考えています。

学習障がいや愛着障がいの支援に当たっては、児童生徒個人の側面とその家族（特に母親）の側面に関する支援を両立させていくことが不可欠です。職員全体がこれらの障がいを十分に理解し、キーパーソンとなる一人の教師が中心となって適切な対応を行うことを大切にしていきたいものです。

当センターほほえみ教室においては、児童生徒への支援と保護者への支援も合わせて行っています。特に保護者の方々に向けて、下記のような研修会や心の相談会も実施しております。是非ご参加ください。

＜心の相談会＞

	開催日	時間	場所
①	10月 8日（水）	14:00～16:30	揖斐郡教育研修センター
②	11月26日（水）	15:30～17:00	大野町民総合センター
③	1月14日（水）	14:00～16:30	揖斐郡教育研修センター
④	2月25日（水）	14:00～16:30	揖斐郡教育研修センター

各務原病院臨床心理士の井上修一先生をお招きし、30分程度の個別の教育相談を実施します。不登校にかかる不安や悩みについて相談することができます。的確なアドバイスをいただけますので保護者の方々に是非ご紹介ください。

令和7年度 郡PTA連合会の取組について

本年度、揖斐郡PTA連合会では次のような取組を進めています。

（1）指導者研修会

各単位PTAで、二つのコンテンツから一つを選び、会議等で視聴して、意見・感想等を交流する。

・さわやかなPTAをめざして ～これからのPTAへアップデート～

・「譲ってはいけないところは譲らない」生きる力を育む、自閉症の療育に生涯を捧げた医師

（2）子育て委員会研修会

①「親子でクッキング」 7月26日（土） 揖斐川中学校調理室

「夏休みにピッタリなおやつ」 講師 岐阜県学校給食会 白田 典子 氏

②「ノースマホ・ノーゲームデー」 8月～10月末 在宅研修

（3）「岐阜県PTA連合会by西濃」の実践発表

岐阜県PTA連合会 第70回岐阜県PTA研究大会 by 西濃について

□開催期間 令和7年9月14日（日）～11月30日（日）

□開催場所 <https://sites.google.com/view/70ptabyseinou>

・池田町立池田中学校「生徒のよりよい学校生活のために」を進めていく中で

～池田中学校における、持続可能なPTA活動の在り方～

をはじめ、たくさんの学校の実践発表が掲載されています。ご覧ください。

□関連企画 「岐阜県PTA子ども夢パークby西濃」

令和7年11月8日（土）10時30分～15時（岐阜協立大学学園祭同日開催）

会場：岐阜協立大学（大垣市北方町5-50） 飛翔の掌の像付近

・子どもの遊び場「プレーパーク」、講演会、写真展「わたしのお産展 in ぎふ」、マルシェ等、様々な企画が盛りだくさん。家族で参加できるイベントです。ぜひ、足を運んでみてください。

令和7年度 揖斐郡学校保健研修総会

7月30日(水)、谷汲サンサンホールで令和7年度揖斐郡学校保健研修総会を行いました。

総会には、郡三師会の先生方、郡学校保健会理事様、郡内各校の校長先生、保健主事、養護教諭、栄養教諭、体育主任の先生方、PTA会長様など120名の方にご出席いただきました。

第一部の総会で会長様・副会長様のご挨拶、郡学校保健会功労者表彰、郡学校保健環境衛生活動優秀校の表彰、歯の健康優良児童事業及び郡学校環境衛生活動の講評を行いました。

また、「児童生徒の体力・運動能力の維持・向上について考えておきたいこと」のテーマで、中部学院大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 教授 有川 一先生のお話をお聞きし、専門的知識が高められるように研修を行いました。



<有川先生のご講演の概要>

演題：「児童生徒の体力・運動能力の維持・向上について考えておきたいこと」

コロナ禍による体力低下からの回復を含めていくつか情報提供をしていただきながら

- 今及び将来に求められる児童生徒の健康や体力について
- 児童生徒の健康や体力向上のために学校ができること、すべきこと
- わが子の体力向上や健康のために保護者のできること、すべきこと

※講演の最後に100マス計算を実施

郡学校保健研修総会についての参加者の感想・意見

- 部活動がクラブ化になり、部活動に入らない子が増えた。運動離れが明らかに進行していると思います。体育以外での運動の場が本当に少なくなっている今、どうすると以前のように体力の数値になるのか。運動だけでなく、ちょっと体を動かすことも健康にとって大切だということがわかったので、体を動かして脳を活性化させていきたいと思いました。
- 未来を生き抜く子供たちの健康を考えることが、未来の持続可能な社会をつくることにつながるという理論が腑に落ちました。また、100マス計算の演習では、運動後にタイムが縮まり驚きました。軽い運動を取り入れ、リフレッシュした後に学習に向かうとパフォーマンスが上昇することも分かり、早速校内でも実践していきたいと思いました。
- 先生のお話より、今後益々子供達の体力の低下が心配ということを改めて感じました。動くことと脳の働きが関係しているということで、授業中に立って音読をしたり、こちらから動きを作ることができることを教えていただいたので、集中力を高めるためにも45分間座りっぱなしではなく活動を入れ、学力向上にも繋げていきたいと思いました。また、休み時間の遊びの提案や、体育の授業内容でも、運動が苦手な子どもでも楽しめる工夫が必要だと思いました。
- 運動については養護教諭として、運動について子供たちに発信はしたけれど、今回の公演をきいて、身体を動かすと脳が活性化する、座り時間を短くして短期間の運動を取り入れるとよいということがわかったので、これから根拠をもって、子供たちにそのことを発信していきたいです。運動については、今休み時間に全校遊びを体育主任の先生を中心にやってくださっているのので、自分も協力しながら、子供たちを動かす機会を作っていきたいと思いました。
- 子供たちや保護者が体力・運動能力の維持・向上の必要性について理解してもらえるように、養護教諭の立場で考えると、健康面(けがや病気の予防、健康寿命の延長等)について保健だより等を活用しながら啓発ができるのではないかと思います。
- 家庭においては、小さい頃から一緒に親子で公園で遊んだり、運動を好きにさせる環境が大切だと感じました。学校でも、体育の中身を検討して運動が苦手な子どもでも楽しめる活動を仕組んだり、休み時間の遊びについて学級や、委員会等で遊びの提案をしたりすると良いのではないかと思います。



い

が体

揖斐郡学校保健会の取組については「揖斐郡学校保健会ホームページ」にアップしてありますので、ぜひご覧ください。
(<http://www.ikedanet.jp/hokenkai/>)